

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

牛肉価格が高騰する中で、輸出量は過去最高を記録

繁殖雌牛のと畜頭数は増加傾向

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）の「Livestock Slaughter」によると、2021年9月の牛と畜頭数は273万2100頭（前年同月比0.9%減）と前年をわずかに下回ったものの、月間頭数は高水準で推移している（図1）。と畜頭数に占める繁殖雌牛（経産牛、以下同じ）の頭数は、21年3月から7カ月連続で過去3カ年平均よりも多い水準で推移している（図2）。USDAでは、飼料に対する懸念や国内の一部地域で干ばつが続いていることに加え、酪農部門の収益の低下が繁殖雌牛と畜頭数の増加要因と分析しており、今後もこの傾向が続くと予測している。

図1 牛と畜頭数の推移

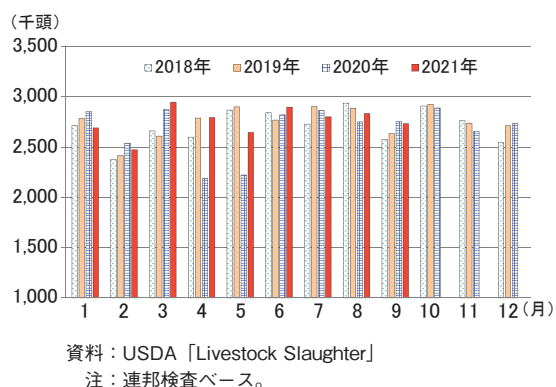
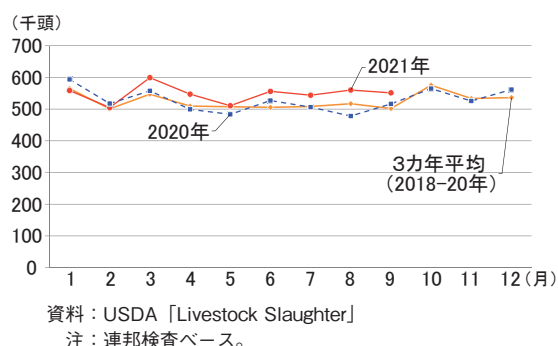


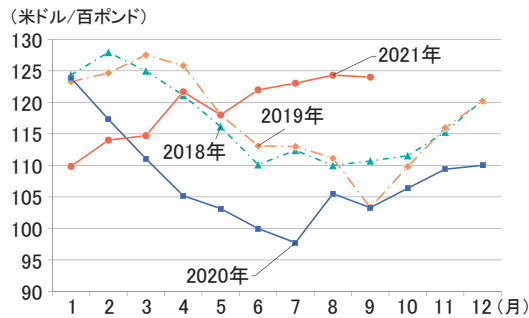
図2 繁殖雌牛（経産牛）と畜頭数の推移



牛肉価格・肥育牛価格は高水準で推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の「Livestock and Meat Domestic Data」によると、2021年9月の肥育牛価格は、前年同月比20.1%高の100ポンド当たり124ドル（1キログラム当たり314円：1ドル＝115円^{（注）}）となった（図3）。21年初めから牛群が縮小傾向にある中、繁殖雌牛のと畜頭数増加により今後の供給頭数の減少が見込まれることが、肥育牛価格の上昇につながっているとみられる。また、国内外からの高い需要を反映して、21年9月の牛肉卸売価格は、前年同月比42.7%高の100ポンド当たり314.81米ドル（1キログラム当たり798円）と高値で推移している（図4）。通常、牛肉価格が高い水準にある場合、繁殖肉牛農

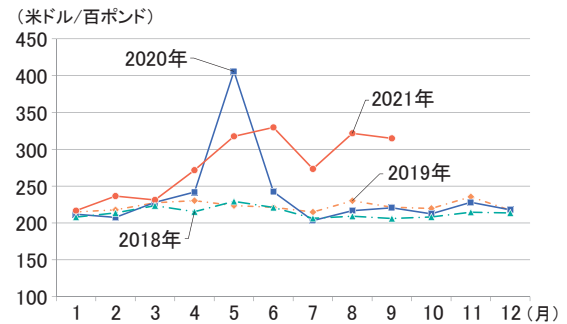
図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。

図4 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。

注2：チョイス級、600～900ポンド。

家は生産水準を維持しようとするが、繁殖雌牛のと畜頭数が増加している現状から今後は供給がひっ迫し、牛肉価格がさらに上昇すると予測する現地報道もある。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

8月の輸出量は過去最高を記録

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年8月の牛肉輸出量は、14万7192トン（前年同月比21.3%増）となり、単月の輸出量として過去最高を更新した（表）。輸出先別に見ると、中国向けが前年同月比で約5.7倍の2万6934トンとなり、輸出増をけん引している。USDAは、米中経済貿易協定の第一段階合意により2020年3月から中国市場への障壁が取り除かれたことで米国産牛肉の輸出量が増加している中、豪州からの供給量が減少していること、

また、中国国内の旺盛な需要が続いていることで、さらに堅調に推移したと分析している。また、輸出先首位である日本向けは、3万4997トン（同10.4%増）となった。21年3月に日米貿易協定に基づくセーフガードの発動により関税が38.5%に引き上げられていたこともあり、1～8月の累計は前年同期比2.5%減となっているものの、同協定に基づき21年度の関税が4月17日から25%にまで引き下げられたことでその後は順調に増加している。また、米国食肉輸出連合会（USMEF）は、日本国内の旺盛な小売需要に対応するため、米国産チルド牛肉の輸入が増えていると述べている。一方、同2位である韓国向けは、昨年8月の輸出量が多かったことから3万1004トン（同9.0%減）となったが、韓国国内の高い需要により1～8月の累計では、前年同期比18.1%増となっている。その他、国内経済の回復が見られるメキシコ向けの増加もあり、この4カ国で輸出全体の7割強を占めている。

表 米国の輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
日本	31,691	34,997	10.4%	23.8%	254,631	▲2.5%
韓国	34,064	31,004	▲9.0%	21.1%	243,104	18.1%
中国	4,742	26,934	468.0% (約5.7倍)	18.3%	155,192	840.7% (約9.4倍)
メキシコ	8,490	12,662	49.1%	8.6%	95,742	20.8%
カナダ	11,461	10,724	▲6.4%	7.3%	82,741	▲7.3%
台湾	10,407	9,090	▲12.7%	6.2%	58,754	▲1.6%
香港	7,799	5,741	▲26.4%	3.9%	39,668	▲31.0%
インドネシア	2,579	3,108	20.5%	2.1%	14,172	41.7%
フィリピン	1,252	1,306	4.3%	0.9%	12,496	18.1%
その他	8,886	11,625	30.8%	7.9%	82,622	19.7%
合計	121,372	147,192	21.3%	100.0%	1,039,121	21.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 上村 照子)

E U

2021年9月の牛枝肉卸売価格、前年同月をかなり大きく上回る

2021年1～7月の生産量、前年同期比1.2%減

欧州委員会によると、2021年1～7月までの牛肉生産量（EU27カ国）は、前年同期比1.2%減の385万トンとなった（表1）。これは、COVID-19の拡大に伴うと畜場の閉鎖などの影響で生産量が減少した前年同期をさらに下回っている。1～7月の生産量の推移を見ると、1月は、アイルランドが前年同月比20.3%減と大幅に減少したことなどからEU全体で同14.1%減とかなり大きく減少した。アイルランドの大幅な減少について、同国では20年12月までの英国のEU離脱（Brexit）移行期間の終了後、両国間の国境管理の混乱が懸

念されたことで、20年に駆け込み的な輸出が行われ、その反動が表れた形となったものである。一方、3～5月は、前年同期の減産の反動で前年同月比増となり、5月までの累計は前年同期並みとなった。しかしながら、この数年上昇している飼料価格などを受けて飼養頭数は減少基調にあり（図1）、その後は前年同月を下回って推移したため、減少幅が拡大した。

今後においては、この減産基調は継続するものの、飼料高による早期出荷や景気回復による外食需要などに伴い畜頭数は増えることから、減少幅は縮小し、21年の牛肉生産量は前年比0.5%減となると見込まれている。

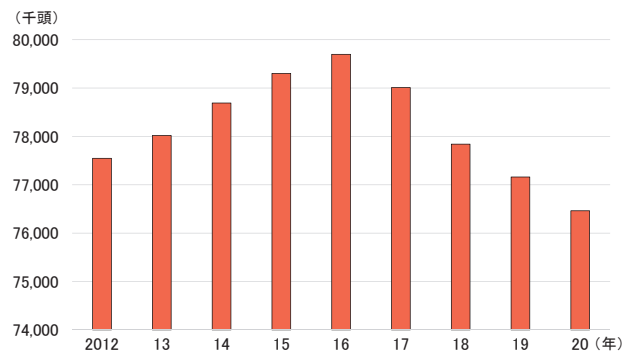
表1 主要生産国別牛肉生産量の推移

(単位:千トン)

	2020年 (1～7月)	2021年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
フランス	828	825	▲ 0.4%
ドイツ	614	601	▲ 2.1%
イタリア	418	419	0.2%
スペイン	384	404	5.2%
アイルランド	364	330	▲ 9.2%
ポーランド	331	327	▲ 1.3%
オランダ	244	244	▲ 0.1%
その他	717	705	▲ 1.6%
合計	3,900	3,854	▲ 1.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

図1 EUの牛飼養頭数の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：各年12月時点。
注2：乳用種を含む。

英国への冷蔵牛肉輸出は大幅に減少

2021年1～7月の冷蔵および冷凍牛肉の輸出量は前年同期比0.4%減の25万7373トンとわずかに減少した(表2)。冷凍牛肉の輸出量は同13.6%増とかなり大きく増加したものの、冷蔵牛肉の輸出量は、最大の輸出先である英国向けの大幅な減少により同9.4%減となったことが影響している。

一方、21年1～7月の冷蔵および冷凍牛

肉の輸入量は同12.4%減とかなり大きく減少した(表3)。Brexitに伴い、英国から輸入される畜産物の動物検疫手続きの混乱から、英国からの冷蔵・冷凍牛肉いずれの輸入量も減少している。さらに、南米産牛肉の供給減^(注1)により、南米地域からの輸入も伸び悩んでいる。

(注1) 海外情報「アルゼンチン、牛肉輸出制限措置を追加緩和」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003065.html)を参照されたい。

表2 EUの牛肉輸出量の推移

(単位:トン)

品目	輸出先	2020年 (1～7月)	2021年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	101,909	80,703	▲ 20.8%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	15,541	18,475	18.9%
	ノルウェー	6,645	12,173	83.2%
	スイス	9,293	11,196	20.5%
	その他	24,343	20,433	▲ 16.1%
	合計	157,731	142,980	▲ 9.4%
冷凍	英国	21,963	29,990	36.5%
	フィリピン	12,027	14,463	20.3%
	中国・香港	16,020	13,379	▲ 16.5%
	日本	4,797	6,705	39.8%
	その他	45,907	49,856	8.6%
	合計	100,714	114,393	13.6%
冷蔵・冷凍計		258,445	257,373	▲ 0.4%

資料：「Global Trade Atlas」
注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

表3 EUの牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2020年 (1～7月)	2021年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵牛肉	英国	38,587	23,662	▲ 38.7%
	アルゼンチン	21,210	19,154	▲ 9.7%
	ウルグアイ	11,098	12,885	16.1%
	ブラジル	7,447	7,212	▲ 3.2%
	米国	6,875	5,522	▲ 19.7%
	豪州	6,237	4,760	▲ 23.7%
	日本	266	585	119.9%
	その他	3,503	2,311	▲ 34.0%
	合計	95,223	76,091	▲ 20.1%
冷凍牛肉	ブラジル	21,153	22,153	4.7%
	ウルグアイ	5,389	8,623	60.0%
	英国	9,685	7,532	▲ 22.2%
	アルゼンチン	2,164	1,804	▲ 16.6%
	NZ	1,546	1,181	▲ 23.6%
	その他	1,688	2,552	51.2%
	合計	41,625	43,845	5.3%
冷蔵・冷凍計		136,848	119,936	▲ 12.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

牛枝肉卸売価格、上昇傾向が続く

欧州委員会によると、牛枝肉卸売価格^(注2)は、COVID-19の規制に伴う外食需要減少などの影響を大きく受け、2020年3月以降、急激に下落した(図2)。その後、徐々に外食需要が回復する中、生産量および輸入量が低迷していることから21年1月以降、一貫して上昇を続けている。21年9月の同価格は、100キログラム当たり394ユー

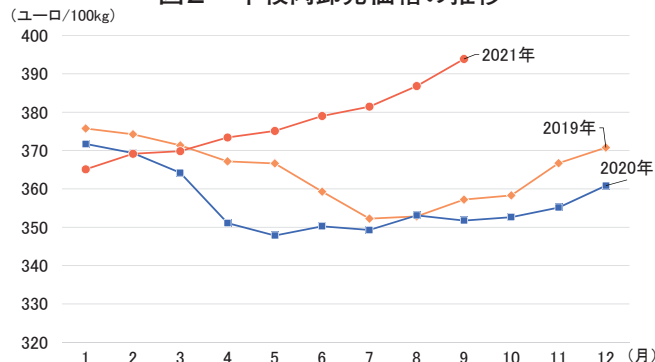
ロ(5万2796円、1ユーロ：134円)

(注3)と前年同月比12.0%高となった。

(注2) 参考価格(A/C/Z-R3)とは、EUにおける牛枝肉卸売価格の指標的な価格であり、A=若雄牛(12～23カ月齢)、C=去勢牛(12カ月齢以上)、Z=若齢牛(8～11カ月齢)のうち、R=枝肉の格付けが上(6段階評価の上から4番目)、3=脂肪の付着度合いが平均的(5段階評価の上から3番目)なものの加重平均価格である。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

図2 牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」

注：EU参考価格。

(調査情報部 国際調査グループ)

豪州

牛肉輸出量は増加傾向、牛群再構築は継続中

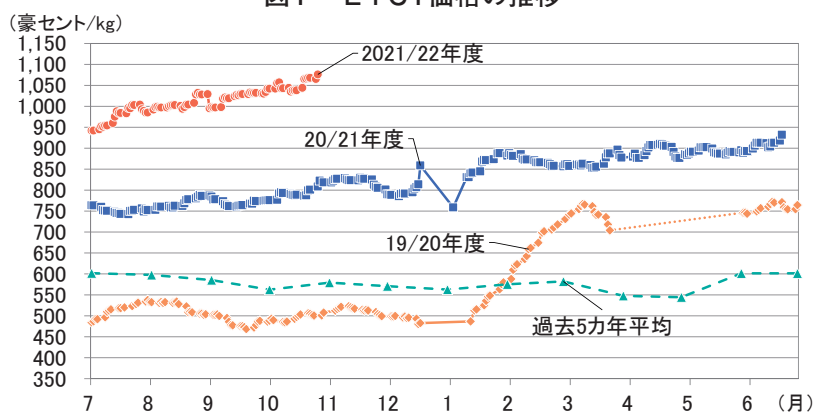
肉牛取引価格は高値更新を継続

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、10月26日に過去最高となる1キログラム当たり1076豪セント（947円：1豪ドル＝88円^{（注1）}）を記録した。前月比で45豪セント（40円）、前年比で267豪セント（235円）も上昇しており、依然として高値更新を続けている（図1）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

現地報道によると、MLAや調査会社のアナリストらは、このEYCI価格の推移を異常な経済現象であるとし、特に降雨の影響による牧草肥育業者の購買意欲が関係しているとしている。また、2021年10月に公表されたオーストラリア・ニュージーランド銀行（ANZ）のレポートによると、EYCI価格の高止まりは、同国で進む牛群再構築の進展に加え、豪州産牛肉に対する海外からの堅調な需要も背景にあるとしている。同レポートでは、過去1年間で牛肉の小売価格が13%以上上昇しているが、これはEYCI価格と連動する傾向があるため、今後、小売価格のさらなる上昇を見込んでいる。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

中国向け輸出量は増加傾向も不確実性をはらむ

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、2021年9月の牛肉輸出量は7万9843トン（前年同月比9.9%増）

とかなりの程度増加した（表）。一方、同年1～9月の累計では66万575トン（前年同期比16.7%減）と依然として大幅に減少しているものの、減少幅は月を追うごとに縮小している。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 9月	2021年 9月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
日本	20,500	21,435	4.6%	177,990	▲ 10.5%
米国	15,877	15,237	▲ 4.0%	107,907	▲ 37.4%
韓国	10,693	13,639	27.6%	116,715	2.3%
中国	10,387	12,435	19.7%	108,776	▲ 30.2%
東南アジア	6,160	8,594	39.5%	75,073	1.6%
中東	2,943	2,932	▲ 0.4%	22,259	8.9%
E U	465	577	24.1%	6,017	▲ 10.3%
その他	5,595	4,994	▲ 10.7%	45,837	▲ 9.7%
輸出量合計	72,619	79,843	9.9%	660,575	▲ 16.7%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

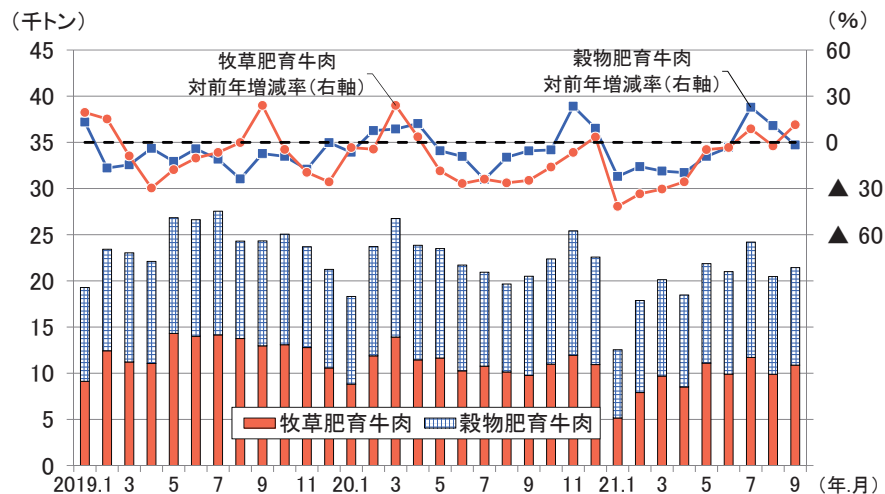
注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ)の合計。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本は2万1435トン（前年同月比4.6％増）とやや増加し、本年1～9月の累計（累計期間は以下同じ）では17万7990トン（前年同期比10.5％減）となった。また、日本向け輸出の構成比を見ると、穀物肥育が49.2％、牧草肥育が50.8％となって

おり、牧草肥育の割合が上昇傾向となっている（図2）。

続く米国向けは、1万5237トン（前年同月比4.0％減）と前月に比べ減少幅は縮小したものの、累計では10万7907トン（前年同期比37.4％減）と依然として前年を大幅に下回っている。

図2 日本向け牛肉輸出量と増減率の推移



資料：MLA

注：船積重量ベース。

韓国向けは1万3639トン（前年同月比27.6%増）と大幅に増加し、累計では11万6715トン（前年同期比2.3%増）と、前年同期を超える水準となり、日本に次ぐ輸出量で推移している。

一方、中国向けは1万2435トン（前年同月比19.7%増）と大幅に増加しているが、累計では10万8776トン（前年同期比30.2%減）と前年を大きく下回って推移している。なお、現地報道によると、豪クイーンズランド州の食肉加工業者であるオーストラリアン・カンントリー・チョイス（ACC）社は、寧波港入荷の同社製造牛肉での残留薬剤検出を理由に、10月18日付けで中

国当局から同国向け牛肉輸出を停止される事態が発生している。昨年来、中国向けの牛肉輸出が停止されている豪州の食肉加工処理場はこれで7カ所目^{（注2）}となっており、引き続き中国向けの牛肉輸出は不確実性をはらんでいる。

（注2）詳細は海外情報「中国が豪州の4つの牛肉処理場からの牛肉輸入停止を通告」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002706.html）を参照されたい。なお、2020年5月に輸入停止となった4カ所に加え、同年8月に1カ所、12月に1カ所と、いずれもクイーンズランド州の食肉処理場からの輸入が停止されており、今般のACC社で7カ所目となる。

（調査情報部 国際調査グループ）

豚 肉

米 国

8月の豚肉輸出量、メキシコ向けの増加が中国向けの減少を相殺

1 腹当たりの産子数は過去最高を記録

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）の「Hogs and Pigs」（四半期報告）によると、2021年9月1日時点の豚飼養頭数は、繁殖豚頭数、肥育豚頭数ともに減少したことが影響し、7535万2000頭（前年比3.9%減）となった（表1）。また、6～8月期の分娩母豚頭数および産子数は減少したものの、1腹当たりの産子数は11.13頭と前年をわずかに上回り、過去最高となった。

USDAによると、母豚価格が大幅に上昇し、生産者は繁殖豚を導入しにくい状況にあったことから、20年6月以降、繁殖豚の

飼養頭数は前年を下回って推移している。一方、22年の豚肉生産に直結する21年12月～22年2月の分娩母豚頭数は、前年同期比1.4%増と増加に転じるとの見通しであることから、22年第3四半期（7～9月）の豚肉生産量は前年同期を上回るとみられている。また、USDAは、21年の初めに養豚産業が盛んな中西部の北部の州で豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）が発生していたことなどから1腹当たりの産子数が減少していたものの、生産者によるPRRS対策の結果、生産環境が改善したことから、6～8月の1腹当たりの産子数は過去最高となった可能性があるとしている。

豚の飼養頭数を州別に見ると、豚飼養頭数最大のアイオワ州は2440万頭（前年比1.6%減）となった。また、ノースカロライナ州は830万頭（同13.5%減）と減

少が比較的大きかったが、イリノイ州は545万頭（同0.9%増）となるなど主要州でも州によって差が生じている（表2）。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（9月1日時点）	75,136	78,583	78,434	75,352	▲ 3.9%
繁殖豚	6,330	6,431	6,333	6,190	▲ 2.3%
肥育豚	68,806	72,153	72,101	69,162	▲ 4.1%
50ポンド（23キログラム）未満	22,192	23,376	23,144	21,855	▲ 5.6%
50～119ポンド （23～53キログラム）	20,357	21,224	21,020	19,751	▲ 6.0%
120～179ポンド （54～81キログラム）	14,066	14,654	14,867	14,656	▲ 1.4%
180ポンド（82キログラム）以上	12,190	12,899	13,069	12,899	▲ 1.3%
分娩母豚頭数（6～8月）	3,172	3,274	3,260	3,046	▲ 6.6%
産子数（6～8月）	34,019	36,370	36,056	33,900	▲ 6.0%
1腹当たり産子数（6月～8月）（頭）	10.72	11.11	11.06	11.13	0.6%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

表2 州別豚飼養頭数の推移（9月1日時点）

（単位：千頭）

	2020年	2021年	前年比 (増減率)
アイオワ州	24,800	24,400	▲ 1.6%
ミネソタ州	9,100	9,000	▲ 1.1%
ノースカロライナ州	9,600	8,300	▲ 13.5%
イリノイ州	5,400	5,450	0.9%
インディアナ州	4,450	4,300	▲ 3.4%
ネブラスカ州	3,800	3,650	▲ 3.9%
その他	21,284	20,252	▲ 4.8%
合計	78,434	75,352	▲ 3.9%

資料：USDA「Hogs and pigs」

注：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

8月の豚肉輸出量、前年同月比0.2%減

米国農務省経済産業局(USDA/ERS)の「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年8月の豚肉輸出量は23万8600トン(前年同月比0.2%減)と前年同月並みとなり、同年1～8月の累計では220万7900トン(前年同期比0.2%減)となった(表3、図)。

と前年同月並みとなり、同年1～8月の累計では220万7900トン(前年同期比0.2%減)となった(表3、図)。

表3 米国の輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1-8月)	前年同期比 (増減率)	シェア
メキシコ	56.7	85.2	50.4%	568.2	27.5%	25.7%
中国	51.5	26.1	▲49.2%	438.2	▲35.7%	19.8%
日本	42.3	46.0	8.8%	386.0	8.2%	17.5%
カナダ	23.4	19.7	▲16.2%	169.0	▲0.4%	7.7%
韓国	12.7	13.4	5.4%	166.3	5.6%	7.5%
フィリピン	6.5	4.3	▲33.9%	82.9	187.7% (約2.9倍)	3.8%
コロンビア	5.9	11.2	89.0%	81.2	53.5%	3.7%
その他	40.1	32.6	▲18.7%	316.0	▲1.0%	14.3%
合計	239.2	238.6	▲0.2%	2,207.9	▲0.2%	100.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

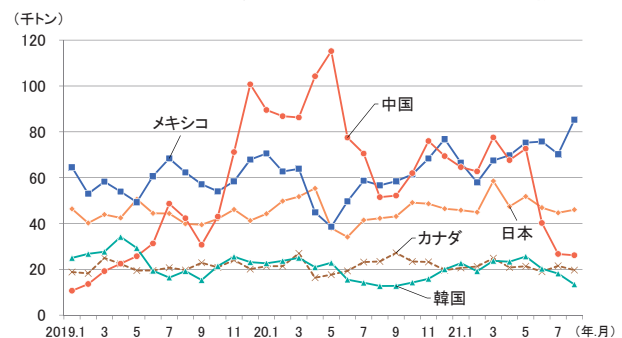
注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

8月の豚肉輸出量を主要輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは、同国の経済回復に伴い豚肉需要が好調を維持していることなどから、前年同月比5割増と大幅に増加した。一方、増加基調で推移してきた中国向けは、同国内の豚肉生産量の回復などに伴い9カ月連続で前年同月を下回り、同月は同約5割減と大幅に減少した。このようにメキシコ向けの増加が中国向けの減少を相殺する形となった。日本、韓国向けは、好調な小売需要を背景に冷蔵品が増加している。コロンビア向けは、コロナ禍で大きく落ち込んだ

前年からの経済回復により大幅に増加した。

図 米国の主要輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

中国

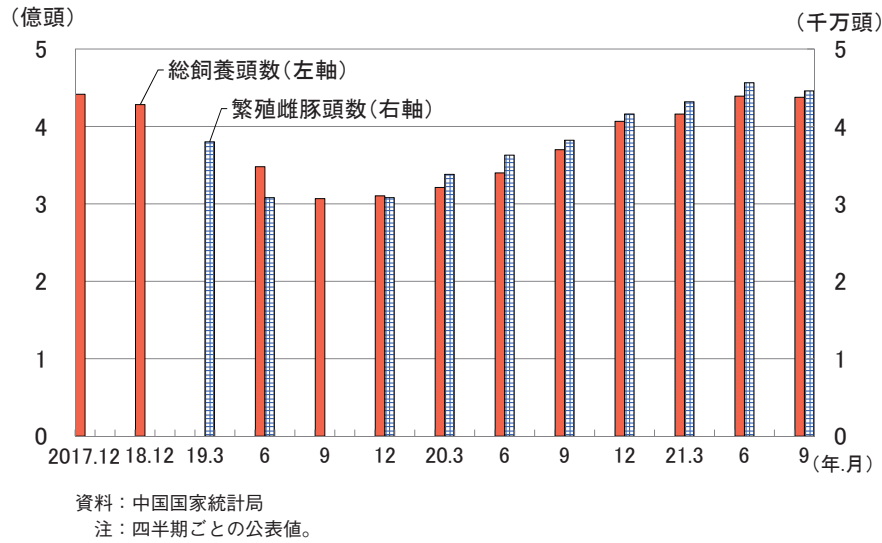
と畜頭数は近年にない高水準、豚肉輸入量は減少

豚飼養頭数、繁殖雌豚頭数ともに減少に転じる

中国国家統計局によると、2021年9月末時点の豚総飼養頭数（四半期ごとに公表）は、前回公表時（同年6月）に比べ0.3%減の4億3764万頭、うち繁殖雌豚頭数は

同2.3%減の4459万頭となった。アフリカ豚熱の発生により落ち込んだ豚飼養頭数は、その後の急速な飼養頭数の回復により発生前とほぼ同水準に達しており、最近では生体豚価格の下落などからこの勢いに歯止めがかかっているとされている（図1）。

図1 豚飼養頭数の推移



2021年の豚と畜頭数と豚肉生産量は高水準で推移

2021年3月以降、豚と畜頭数は前年同月を上回る水準かつ増加傾向で推移しており、8月は前年同月比97.5%増の2328万5600頭と、単月実績では19年以降で最多頭数を記録している（図2）。例年の夏期は、豚肉需要が減少することから比較的と畜頭数の少ない時期であるものの、飼養頭数の回復などを受けて21年は近年にない高水準となっている。

豚と畜頭数の増加に合わせて豚肉生産量も

伸びている。中国国家统计局によると、2021年1～9月の豚肉生産量は前年同期比38.1%増の3917万トンとなった（図3）。現地報道によると、大規模生産者を中心に豚肉価格の低下に伴い生体豚の出荷を遅らせているとされ、出荷体重の増加から直近8月の平均と畜重量は104キログラムと、通常のと畜重量に比べ10キログラムも多い状況と報告されており、と畜頭数の増加と相まって、豚肉生産量が増加する状況となっている。

図2 豚と畜頭数の推移

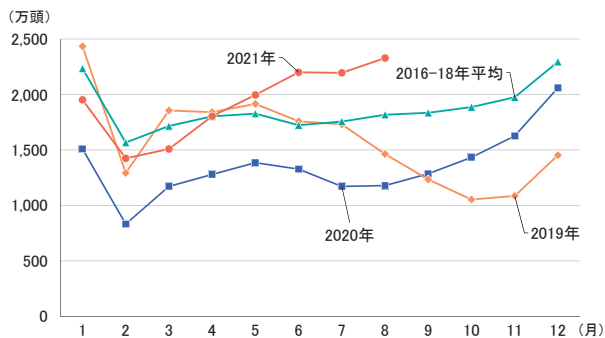
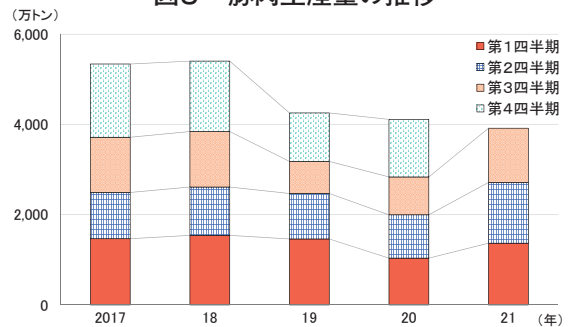


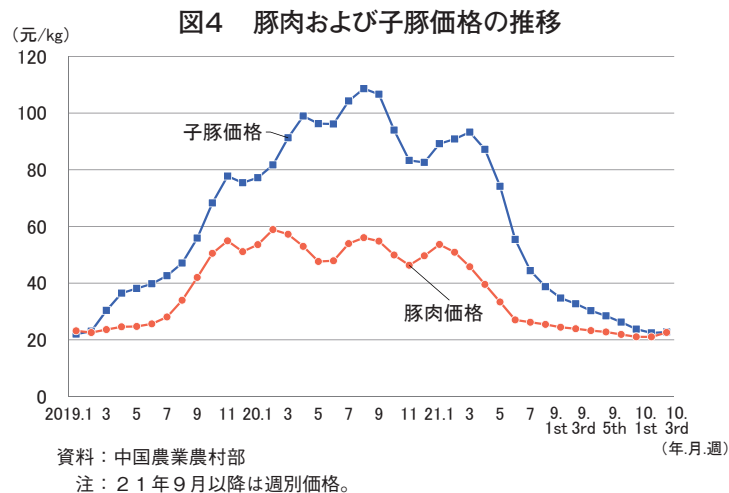
図3 豚肉生産量の推移



豚肉価格は下落傾向も10月に入り、やや回復

豚肉供給量が大幅に増加する中、2021年の豚肉価格は2月以降、子豚価格は4月以降、いずれも継続して下落傾向にある。本年

9月の豚肉価格は前月比8.6%安の1キログラム当たり23.2元（420円：1元＝18.1円^{（注1）}）、子豚価格は同21.3%安の同30.5元（552円）となった（図4）。



中央政府は2021年7月、「政府の豚肉備蓄調整メカニズムを改善し、豚肉市場の供給と価格の安定化を図る準備計画」に基づき、3回にわたり合計5万3000トンの豚肉の買い入れおよび保管を実施した^{（注2）}。これに伴い、一時的に豚肉価格は小幅な回復を見せたものの、その後も下落傾向は継続した。このため、中央政府は10月10日、再度3万トンの豚肉の買い入れおよび保管を実施したところ^{（注3）}、同月の国慶節向け需要も相まって豚肉価格は回復に向かっている。中国国家発展改革委員会によると、生体豚価格の回復と8月後半からのトウモロコシ価格の下落により、10月20日現在の豚/穀物比^{（注4）}は5.31：1と、最上位の警戒レベルとなる第1級警報段階から脱したとされている。中国農業農村部によると、気温の低下に伴い冬場に向けた加工肉の需要が高まっていることから、重量のある肥育豚がこれら加工向けに

仕向けられ、10月以降の豚肉価格の上昇に寄与しているとされている。

一方、現地調査会社によると、アフリカ豚熱発生前に比べ、豚肉需要はCOVID-19の影響や食習慣の変化により減少しているとされている。このため、豚肉生産量が大幅に回復している中で、大規模生産者による生産性の低い繁殖母豚を中心とした淘汰の増加、また、輸入在庫の放出（後述）などの要因も重なり、豚肉価格が底を脱するには6～10カ月程度かかるとし、豚肉価格の本格的な回復は来年の第2四半期以降と分析されている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

（注2）海外情報「豚肉価格下落を受けて国家備蓄のための豚肉の買入・保管を開始（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002983.html)を参照されたい。

(注3) 海外情報「豚肉価格低迷で国家備蓄による買入・保管を再度実施（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003064.html) を参照されたい。

(注4) 政府による養豚生産者の収益性の指標値。算出方法は、1キログラム当たり生体豚出荷価格/1キログラム当たりトウモロコシ卸売価格。損益分岐点は7:1とされる。

豚肉輸入量は減少に転じる

2021年1～9月の豚肉輸入量は、前年同期比6.0%減の302万1772トンと減少に転じた（表）。9月単月で見ると前年同月比46.7%減、前月比23.8%減の19万8291トンと大幅に減少している。

これを輸入先別に見ると、スペインやオランダ、ブラジルからの輸入量は引き続き大幅増となっているが、豚肉価格が高騰している米国やカナダからの輸入量は大幅に減少している。しかし9月単月で見ると、豚肉価格が下落傾向にある欧州を含め、ほとんどの輸入先からの輸入量は減少している。現地調査会社によると、国産に対し輸入豚肉の価格の優位性が小さくなっていることなどから2021年上半期の輸入豚肉の販売は低調であり、大手輸入企業の在庫量は2カ月分に近いとされている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	23.8	22.0	38.2	93.4	94.5	53.4%
ブラジル	4.9	15.0	22.2	48.1	40.3	17.0%
米国	16.6	8.6	24.5	69.6	35.8	▲ 38.3%
デンマーク	8.9	7.2	16.4	36.0	29.0	7.9%
オランダ	8.6	8.5	16.0	26.5	24.9	23.5%
カナダ	16.7	16.0	17.2	41.1	20.8	▲ 29.4%
その他	42.3	42.0	64.9	115.8	56.9	▲ 37.4%
合計	121.7	119.3	199.4	430.4	302.2	▲ 6.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

E U

乳製品価格は堅調に推移

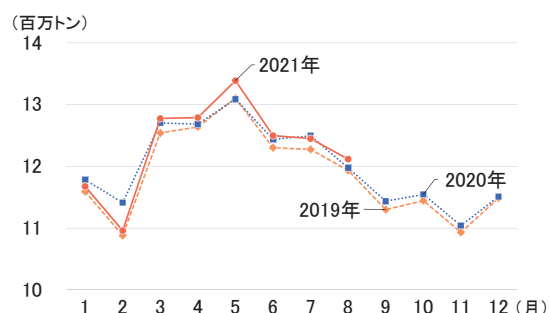
8月の生乳出荷量は、前年同月を1.2%上回る

欧州委員会によると、2021年8月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月をわずかに上回る1211万7360トン（前年同月比1.2%増）となった（図1）。

8月の出荷量を国別に見ると、生乳出荷量が最も多いドイツ（同0.7%減）やオランダ（同1.5%減）が前年同月を下回った一方、フランス（同1.1%増）、ポーランド（同0.9%増）、イタリア（同8.7%増）、アイルランド（同5.4%増）、スペイン（同3.1%増）、デンマーク（同1.6%増）など主要生産国の多くが前年同月を上回った（表）。

欧州委員会が10月に公表した農畜産物の短期的需給見通し^{（注1）}の中で、21年第3四半期の生乳出荷量は前年同期並みと見込まれており、8月は前年同月をわずかながら上回る水準となった。また、同見通しの中で、

図1 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,702	2,684	▲ 0.7%	21,842	▲ 1.5%
フランス	1,905	1,927	1.1%	16,605	▲ 1.1%
オランダ	1,140	1,123	▲ 1.5%	9,270	▲ 1.9%
ポーランド	1,050	1,059	0.9%	8,514	0.3%
イタリア	932	1,013	8.7%	8,391	4.5%
アイルランド	893	942	5.4%	6,796	6.2%
スペイン	606	624	3.1%	5,063	0.6%
デンマーク	481	488	1.6%	3,812	▲ 0.3%
ベルギー	360	362	0.4%	2,991	▲ 0.4%
その他	1,905	1,894	▲ 0.6%	15,372	▲ 0.2%
合計	11,975	12,117	1.2%	98,655	0.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

21年の生乳出荷量は、搾乳牛頭数の減少からフランス、オランダ、デンマークで減少すると見込まれているものの、同頭数の増加するイタリア、アイルランドなどの増加によって減少分が補われることから前年比0.3%増と前年並みが見込まれている。

(注1) 海外情報「欧州委員会、生乳・乳製品の短期的需給見通しを公表（EU）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003079.html)を参照されたい。

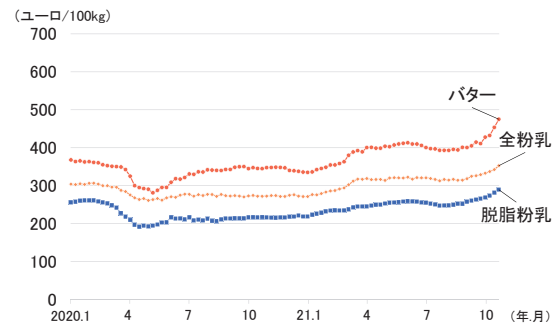
バターなどの乳製品価格は上昇傾向で推移

同見通しによると、乳製品の国際需給は中国の需要にけん引されており、中国向け輸出が好調を維持する中で乳製品価格も上昇傾向にある(図2)。生乳出荷量が季節的にも少なくなる中で、直近の10月24日の週平均の乳製品価格は、バターが100キログラム当たり475ユーロ(6万3650円、1ユーロ＝134円)^(注2)(前週比4.7%高)、脱脂粉乳が289ユーロ(3万8726円)(同2.9%高)、全粉乳が353ユーロ(4万7302円)(同3.0%高)といずれも前週を上回った。

今後の乳製品価格について、年末にかけて中国国内で一部在庫調整の動きが見られることから中国からの需要は弱まると見込まれているものの、世界的な需要は堅調であることから引き続き高い水準で推移すると見込まれている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TT S相場。

図2 乳製品価格の推移

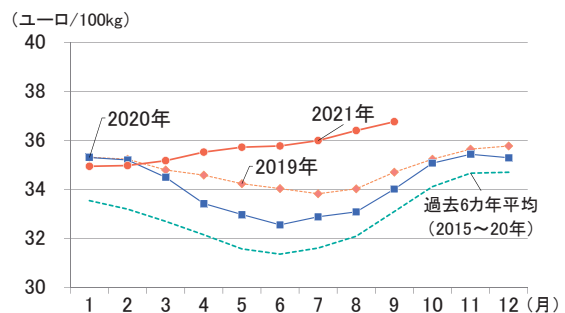


資料：欧州委員会「Milk market observatory」

生乳取引価格は上昇傾向で推移

欧州委員会によると、9月のEUの平均生乳取引価格(推定値)は、100キログラム当たり36.76ユーロ(4926円)と前年同月比8.1%高となった(図3)。乳製品価格が好調に推移していることから、生乳価格も例年の季節傾向とは異なり、夏場に下落することなく、高い水準で推移している。今後、中国からの需要の減速が見込まれる中で、第4四半期の生乳出荷量が前年同期よりも増える見込まれていることから、生乳出荷量が減少する冬場にかけての同価格の上昇は限定的な動きになると思われる。

図3 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

(調査情報部 小林 智也)

豪 州

生乳生産量、新年度に入り前年同月比で減少が続く

8月の生乳生産量はやや減少

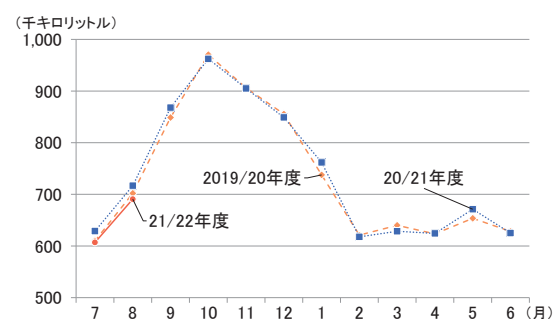
デーリー・オーストラリア（DA）によると、2021年8月の生乳生産量は酪農主産地であるビクトリア（VIC）州などで前年同月を下回った結果、69万649キロリットル（71万1368トン相当、前年同月比3.6%減）となった（表1、図1）。特にVIC州南部やタスマニア州、西オーストラリア州では、例年に比べて雨が少なく、この時期としては冷涼な気候が牧草の生育に影響を及ぼしていることから、21/22年度（7月～翌6月）の幕開けとなった7月以降、生乳生産量は前年同月比3%以上の減少が続いている。このため、8月までの累計でも129万7546キロリットル（133万6473トン相当、前年同期比3.6%減）となった。

しかしながらDAでは、21/22年度の生乳生産量について、これまでと同じく前年度比0～2%増と予測している^{（注1）}。その理由として、降雨により牧草地の更新が遅れた地域があるものの、春以降の気温上昇によ

り牧草の生育促進が見込まれることや、昨年度が豊作だったことで、多くの酪農家にはまだ十分な量の飼料在庫があることなどを挙げている。

また、豪州農業資源経済科学局（ABARES）は、「Agricultural forecasts and outlook—September quarter 2021」の中で、同年度の生乳生産量を前年度比1.1%増と予測している。増産の要因としてABARESは、十分な降水量に恵まれたことから牧草の良好な生育が期待されることや、経営面でも現地では低金利が予測されていることで酪農設備のメンテナンスや

図1 生乳生産量の推移



資料：DA

注：年度は7月～翌6月。

表1 州別の生乳生産量の推移

（単位：千キロリットル）

州 名	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021/ 22年度 (7～8月)	前年同期比 (増減率)
ビクトリア州	483.6	462.7	▲ 4.3 %	865.9	▲ 4.4 %
ニューサウスウェールズ州	94.9	98.4	3.7 %	190.8	2.8 %
タスマニア州	41.7	36.5	▲ 12.5 %	58.7	▲ 10.3 %
南オーストラリア州	38.1	36.3	▲ 4.6 %	70.3	▲ 4.1 %
西オーストラリア州	30.7	29.0	▲ 5.5 %	58.1	▲ 4.8 %
クイーンズランド州	27.8	27.7	▲ 0.4 %	53.7	▲ 1.6 %
合 計	716.8	690.6	▲ 3.6 %	1,297.5	▲ 3.6 %

資料：DA

投資拡大が期待されること、また、中国などがけん引する世界的な乳製品需要に後押しされた高い乳価の持続などを挙げている。これらの好条件により1戸当たりの乳用牛飼養頭数は増加が見込まれる一方、記録的な牛肉価格や地価の上昇傾向を受け、一部の酪農家における肉用牛農家への転換や離農も想定されることで、長期的な酪農家戸数減少のトレンドを一時的に加速させる可能性があるとしている。

(注1) 海外情報「2021/22年度生乳生産見通し、収益は改善も生産は伸び悩み(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002999.html)を参照されたい。

豪乳業大手、相次いで生産者支払い乳価を引き上げ

10月28日および29日、豪州大手のサプート・デイリー・オーストラリア社(以下「豪州サプート社」という)と豪州フォンテラ社は、年度当初(21年7月1日)にいずれも乳固形分1キログラム当たり6.95豪ドル(612円:1豪ドル=88円^(注2))とされていた乳価^(注3)を、それぞれ同7.05豪ドル(620円)および同7.10豪ドル(625円)に引き上げると発表した。年度当初から高水準であった乳価をさらに引き上げる背景について、豪州フォンテラ社は、堅調な需要に対して供給が伸び悩んでいることから国際市場の見通しが明るいこと、また、VIC州などで実施されていたCOVID-19に伴う外出制限が緩和されるにつれ、豪州国内の外食産業が回復し内需が見込めることなどを挙げている。さらに、例年以上の多雨などによる牧草の生育不良で、現在の生乳生産量が予測を下回っているため、今回の乳

価の見直しや牧草生育の復調が年度後半の生乳生産の回復につながることを期待していると述べた。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

(注3) 海外情報「2021/22年度の当初乳価は7ドル前後で幕開け(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002989.html)を参照されたい。

脱脂粉乳および全粉乳の輸出は好調

DAが発表した2021年8月の主要乳製品4品目の輸出量は、脱脂粉乳と全粉乳は増加した一方、バターおよびバターオイルとチーズは減少した(表2、図2)。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、最大の輸出先である中国向けは減少したものの、タイ向けなどその他アジア向け輸出が好調であったことを受け、かなり大きく増加した。また、全粉乳は、中国を含めたアジア向け輸出の伸びなどを受けて大幅に増加した。一方、バターおよびバターオイルは、昨年度(7月~翌6月)は中国向けの増加にけん引され、すべての月で前年同月を上回ったが、本年8月は、中国向けの減少を受けかなり大きく減少した。また、チーズも、最大の輸出先である日本向けや東南アジア向けの減少を受け、かなり大きく減少した。

表2 乳製品輸出量の推移

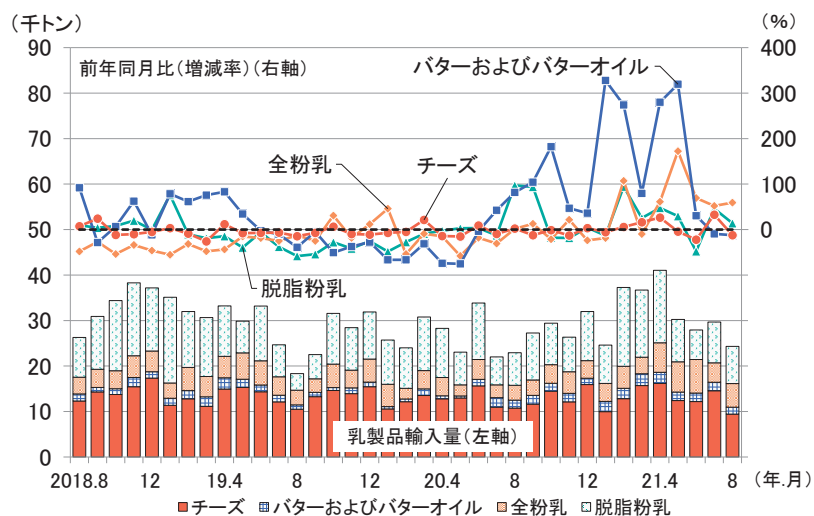
(単位：トン)

品目	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021/ 22年度 (7～8月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	7,165	8,157	13.8 %	17,108	28.6 %
全粉乳	3,272	5,207	59.1 %	9,499	55.7 %
バターおよび バターオイル	1,724	1,511	▲ 12.3 %	3,383	▲ 10.7 %
チーズ	10,767	9,442	▲ 12.3 %	23,993	10.4 %

資料：D A

注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および増減率の推移



資料：D A

注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

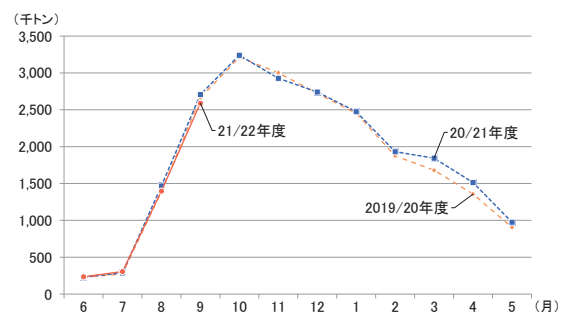
N Z

9月の生乳生産量、2カ月連続で前年同月を下回る

9月の生乳生産量は、前年同月比 4.3%減

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年9月の生乳生産量は、前年同月比4.3%減の258万9892トンとやや減少し、2カ月連続で前年同月を下回った（図1）。現地報道によると、例年に比べて冷涼多雨となったことで、日照不足から牧草の生育に影響が生じ、生乳生産量の減少につながったとされる。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

また、今後の生乳生産量についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、平年以下となっている9月後半の牧草地の生育状態が10月の生乳生産量に影響を与える可能性はあるものの、その後、気温と土壌水分量が好転し、牧草の生育改善が見込まれることで、11月以降、生乳生産量は回復すると予測している。

ニュージーランド（NZ）乳業最大手のフォンテラ社は10月26日、今年度（6月～翌5月）の生産者支払い乳価を乳固形1キログラム当たり平均8.0NZドル（672円：1NZドル＝84円^{（注1）}）から、過去最高となった2013/14年度と並ぶ同8.4NZドル（706円）へと引き上げると公表した。この中で同社は、需要面での変化として、この数カ月、中国の輸入需要は緩和されたものの、他の地域での伸びで相殺されていること、供給面での変化として、飼料費の上昇による米国の生産減などから世界全体の生乳供給量の伸びが平均を下回ると予測されていることを踏まえ、これら需給の変化がこの価格水準を支えているとしている。しかしながら同時に、COVID-19による世界市場への継続的な影響や為替レートの変動など、需給に影響を及ぼす可能性のある要因を注視しているとした。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

9月の乳製品輸出量、脱脂粉乳とチーズは前年同月比増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2021年9月の乳製品輸出量は、脱脂粉乳とチーズが前年同月を上回る一方、全粉乳とバターおよびバターオイルは前年同月を下回った（表1、図2）。

脱脂粉乳は、最大の輸出先である中国やシンガポール向けが好調を維持し、全体でも大幅な増加となった。チーズは、主要輸出先である中国や日本向けが減少したものの、フィリピンなど東南アジア向けや豪州向けの増加により、全体ではわずかに増加した。

一方、全粉乳は、輸出量の4割程度を占める中国向けの停滞や、前年同月の輸出先第2位のスリランカ向けの激減を受け、全体でもかなり大きく減少した。バターおよびバターオイルは、中国をはじめ前年同月の輸出先上位5カ国が軒並み前年同月を下回ったことから、全体でも大幅に減少した。

このような状況ながらもStats NZによると、輸出単価が好調であったことから9月単月の乳製品の輸出額（粉乳、バター、チーズの計）は13年以降の最高値を記録し、輸出シーズンが好調にスタートしたとしている。

表1 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

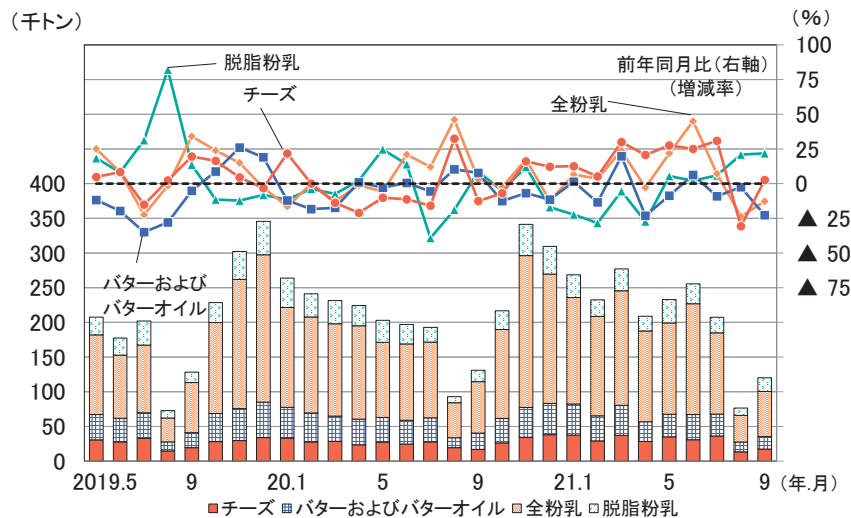
品 目	2020年 9月	2021年 9月	前年同月比 （増減率）	2021/ 22年度 （7～9月）	前年同期比 （増減率）
脱脂粉乳	16,327	19,886	21.8 %	52,831	14.4 %
全粉乳	74,292	64,836	▲ 12.7 %	220,406	▲ 5.8 %
バターおよびバターオイル	23,365	18,072	▲ 22.7 %	63,616	▲ 12.2 %
チーズ	16,977	17,425	2.6 %	67,120	4.7 %

資料：Stats NZ

注1：製品重量ベース。

注2：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

乳製品国際価格は、主要4品目すべてが前回より上昇

2021年10月19日に開催されたグローバルデイリートレード（GDT：月2回開催されるフォンテラ社主催の電子オークション。乳製品の国際価格の指標とされる。）の1トン当たり平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催（同年10月5日）時より上昇した（表2、図3）。

前回開催時は、東南アジアからの需要が全体をけん引する形となったが、今回はこれまでの流れに戻り、北アジア^{（注2）}が全体をけん引する形となった。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、前回比2.5%高の1トン当たり3401米ドル（39万1000円）となった。北アジア、

EU、アフリカからの需要にけん引され、前回はわずかに上回った。全粉乳は、同1.5%高の同3803米ドル（43万7000円）となった。北アジア以外の需要は前回は顕著に下回ったものの、北アジアからの力強い需要にけん引され、全体としてはわずかに上昇した。バターは、同4.7%高の同5111米ドル（58万8000円）となった。北アジアのほか中東からの需要も強かった結果、前回はやや上回る結果となった。チーズは、同2.9%高の同4426米ドル（50万9000円）となった。全粉乳と同じく、北アジアからの需要にけん引され、わずかに増加した。

（注2） ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

表2 GDT乳製品取引価格（2021年10月19日開催）

（単位：米ドル／トン、万円／トン）

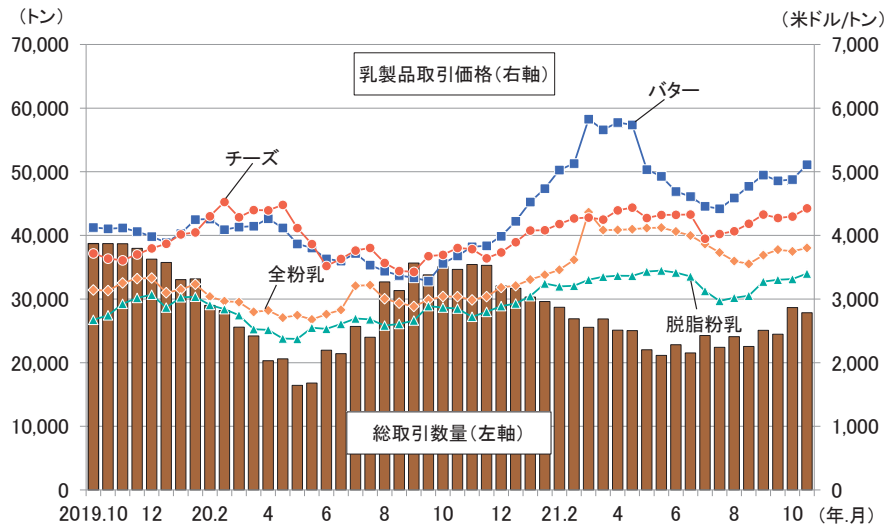
品 目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,401	39.1	19.3 %	2.5 %
全粉乳	3,803	43.7	25.2 %	1.5 %
バター	5,111	58.8	39.0 %	4.7 %
チーズ	4,426	50.9	16.4 %	2.9 %

資料：GDT

注1：1米ドル＝115円（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場）として計算。

注2：前回は10月5日に開催。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部 阿南 小有里）

アルゼンチン

2021年1～9月の生乳生産量は前年に続き増加傾向で推移

生乳生産量は27カ月連続で前年同月を上回る

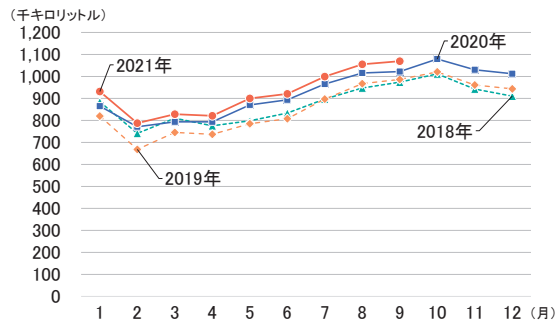
アルゼンチン農牧漁業省（MAGyP）によると、2021年1～9月の生乳生産量は831万3100キロリットル（前年同期比4.0%増）と前年同期をやや上回った（図1）。月別の生乳生産量は、19年7月以降、27カ月連続で前年同月を上回っており、増

産傾向が続いている。

この背景として、生産者は高水準のインフレや飼料価格の上昇といった厳しい経営環境にあるものの、比較的良好な気候の下、少しでも収益を確保するため増産を図っているものとみられている。なお、アルゼンチンでは、安価な牛肉を中心とした中国からの強い牛肉需要を背景に、19年前後に高齢経産牛を中

心にと畜が進み、経産牛飼養頭数が減少した。
このため、今後も生乳の増産を継続していく
ためには、一層の牛群再構築が必要とみられ
ている。

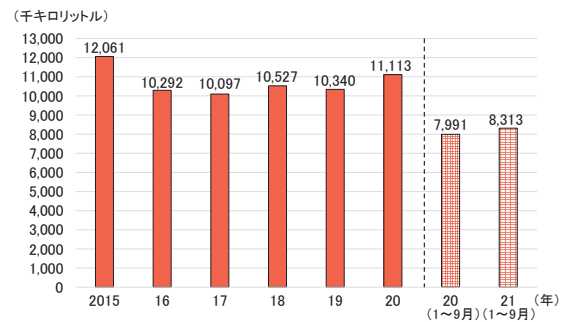
図1 月別生乳生産量の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省

近年の生乳生産量を見ると、15年に1206万1000キロリットルを記録したが、その後（16～19年）は1000万キロリットル台で推移した（図2）。20年は、1111万3200キロリットル（前年比7.5%増）と前年をかなりの程度上回り、直近5年間で最大の生乳生産量となった。これは、良好な天候に恵まれたこと、生産者乳価（ペソ建て）が引き続き上昇傾向で推移したこと、また、国内外の乳製品需要が強いことから生産者の増産意欲が高まったためである。21年は、さらにそれを上回って推移している。

図2 年別生乳生産量の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省

注：2020年の生乳生産量は、10343千キロリットル（19年の生乳生産量）×1.07で算出。

全粉乳およびチーズ輸出量は前年に 続き増加傾向で推移

2021年1～9月の主な乳製品輸出量は、ブラジルをはじめ海外からの需要が強いことや米ドルに対するペソ安により価格競争力が高まったことなどから、おおむね前年同期を上回っている（表）。品目別に見ると、脱脂粉乳を除くすべての品目で前年同期を上回り、最大の輸出産品である全粉乳は、8万8900トン（前年同期比1.9%増）と、大幅に増加した前年に続き増加傾向を維持している。最大の輸出先であるアルジェリア向けが、6万7900トン（同35.1%増）と大幅に増加し全体の76.4%を占めた。このほか、中国向けが少量ながらも

表 主な乳製品の品目別輸出量の推移

(単位：千トン)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比 (増減率)	2020年 (1～9月)	2021年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
全粉乳	110.1	70.8	118.3	85.3	126.4	48.1%	87.2	88.9	1.9%
チーズ	52.9	44.2	42.7	39.4	44.4	12.8%	30.1	38.7	28.6%
ホエイ	67.0	53.7	46.4	41.6	32.4	▲22.0%	21.7	29.4	35.7%
バター	5.6	4.2	3.9	8.2	14.0	69.6%	8.4	10.0	19.3%
脱脂粉乳	25.8	20.1	15.6	13.9	14.2	2.1%	8.2	7.9	▲3.3%

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）

注1：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：0402.21、0402.29、チーズ：0406、ホエイ：0404、バター：0405、脱脂粉乳：0402.10。

注2：製品重量ベース。

2800トン(同4.6倍)と大幅に増加した。チーズの輸出についても3万8700トン(同28.6%増)と前年に続き増加しており、最大の輸出先であるブラジルやこれに続くチリ向けが大幅に増加している。

2020年の輸出状況を見ると、ホエイを除き前年を上回っており、特に全粉乳は12万6400トン(前年比48.1%増)とアルジェリアやブラジル向けを中心に大幅に増加した。

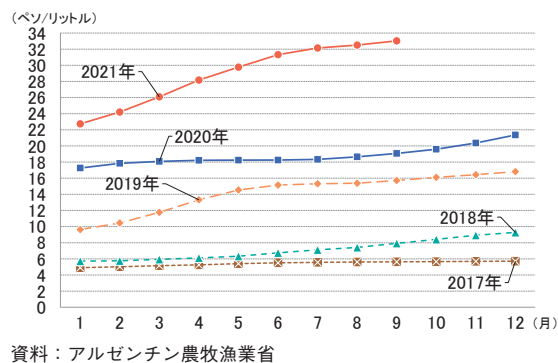
生産者乳価は上昇するものの、大幅な収益改善には至らず

MAGyPによると、2021年9月の生産者乳価(ペソ建て)は、前年同月比73.2%高の1リットル当たり33.03ペソ(38円:1米ドル=100ペソ、115円^(注))となった(図3)。生産者乳価は、18年ごろから上昇基調で推移している。

一方、アルゼンチンでは近年、高水準のインフレが続いており、20年は年率36.1%を記録し、21年もこの傾向が続いている。同国政府は、急激な物価上昇やCOVID-19によるさらなる経済環境の悪化に対応するため、国内経済への影響を緩和し国民への物資の安定供給を図ることを目的として価格統制策を講じている。20年3月には、乳製品を含む食料品などの生活必需品の消費者向け販売価格を同月6日時点の店頭価格に凍結するよう義務付ける制度が導入された。その後も生活必需品・食品などに対し相次いで価格統制が講じられているが、十分なインフレ率の抑制に至っていない。このため、経営基盤が脆弱な小規模生産者を中心に酪農経営への悪影響が見られ、業界からはこういった政府の施策に対する不満が生じている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の10月末TTS相場。

図3 生産者乳価の推移



(調査情報部 井田 俊二)

飼料穀物

世界

2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、前年度からかなりの程度増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード(USDA/WAOB)および米国農務省海外農業局(USDA/FAS)は2021年10月12日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表)。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は、11億9822万トン(前年度比7.4%増、前月比0.0%増)と前月並みが見込まれている。国別に見ると、米国は単収の増加などにより56万トン上方修正されたものの、ウクライナは9月の降雨による収穫遅れや単収の減少などにより100万トン下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億191万トン(同13.5%増、同0.3%増)と前月並みが見込まれている。国別に見ると、増産予測の米国は63万トン上方修正されたものの、減

産予測のウクライナは50万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8385万トン(同1.4%減、同1.1%減)と前月からわずかに下方修正された。主要輸入国である中国の輸入量は2600万トンと前月から変わらないものの、引き続き高水準での推移が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億8646万トン(同4.8%増、同0.0%減)と前月並みが見込まれている。国別に見ると、米国は114万トン、減産予測のウクライナは30万トンそれぞれ下方修正された。

期末在庫は、輸入量の下方修正や、2020/21年度の期末在庫の上方修正などに伴い、前月から1.4%増の3億174万トン(同4.1%増)と見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2021年10月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国 名	2019/20 年度	2020/21 年度 (推計値)	2021/22 年度		
			(9 月 予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	56.41	48.76	30.15	31.41 ▲ 35.6%
	生産量	345.96	358.45	380.93	381.49 6.4%
	輸入量	1.06	0.62	0.64	0.64 3.2%
	消費量	309.55	306.49	313.07	311.93 1.8%
	輸出量	45.13	69.92	62.87	63.50 ▲ 9.2%
	期末在庫	48.76	31.41	35.77	38.10 21.3%
アルゼンチン	期首在庫	2.37	3.62	2.12	2.12 ▲ 41.4%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00 6.0%
	輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01 0.0%
	消費量	13.50	14.00	14.50	14.50 3.6%
	輸出量	36.25	37.50	38.00	38.00 1.3%
	期末在庫	3.62	2.12	2.63	2.63 24.1%
ブラジル	期首在庫	5.31	5.23	4.73	4.73 ▲ 9.6%
	生産量	102.00	86.00	118.00	118.00 37.2%
	輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70 ▲ 51.4%
	消費量	68.50	70.00	73.00	73.00 4.3%
	輸出量	35.23	20.00	43.00	43.00 2.2 倍
	期末在庫	5.23	4.73	8.43	8.43 78.2%
ウクライナ	期首在庫	0.89	1.48	0.90	0.90 ▲ 39.2%
	生産量	35.89	30.30	39.00	38.00 25.4%
	輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02 0.0%
	消費量	6.40	7.10	6.80	6.50 ▲ 8.5%
	輸出量	28.93	23.80	32.00	31.50 32.4%
	期末在庫	1.48	0.90	1.11	0.91 1.1%
中国	期首在庫	210.18	200.53	202.19	204.19 1.8%
	生産量	260.78	260.67	273.00	273.00 4.7%
	輸入量	7.58	28.00	26.00	26.00 ▲ 7.1%
	消費量	278.00	285.00	294.00	294.00 3.2%
	輸出量	0.01	0.01	0.02	0.02 2.0 倍
	期末在庫	200.53	204.19	207.17	209.17 2.4%
世界計	期首在庫	322.56	306.09	286.48	289.99 ▲ 5.3%
	生産量	1,118.62	1,115.50	1,197.77	1,198.22 7.4%
	輸入量	167.61	186.42	185.95	183.85 ▲ 1.4%
	消費量	1,135.09	1,131.61	1,186.62	1,186.46 4.8%
	輸出量	172.40	177.97	201.27	201.91 13.5%
	期末在庫	306.09	289.99	297.63	301.74 4.1%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 荒川 侑子）

2021/22年度の大豆期末在庫、生産増と需要緩和で引き続き上方修正

米国農務省世界農業観測ボード(USDA/WAOB)および米国農務省海外農業局(USDA/FAS)は2021年10月12日、2021/22年度の世界の大豆需給予測値を更新した。

これによると、世界の大豆生産量は前月から72万トン上方修正の3億8514万トン(前年度比5.4%増)と前年度に続く記録的な生産が見込まれている(表)。最大の生産国であるブラジルが過去最大とされるほか、主要生産国の米国やアルゼンチンも前年度を上回ると見込まれている。特に米国は、収穫面積に変更がない中で、前月に続いて単収が上方修正(0.9ブッシェル増の1エーカー当たり51.5ブッシェル)され、同じく過去最大の生産量が見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億7308万トン(同5.0%増)と前月から9万トン下方修正された。国別に見ると、最大の輸出国であるブラジルは、作付面積の拡大などに伴う生産増を背景に9300万トン(同13.9%増)と前年度をかなり大きく上回る一方、米国は、繰越在庫が少ないことなどから

5688万トン(同7.8%減)と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億7062万トン(同2.9%増)と前月から32万トン下方修正された。国別に見ると、最大の輸入国である中国は前月と変わらず1億100万トン(同2.0%増)に据え置かれた。中国は、国内でのアフリカ豚熱発生後、減少した豚飼養頭数の回復に歩調を合わせる形で世界の大豆貿易をけん引してきたが、その後の豚飼養頭数の増加が豚肉価格の下落を招いたことで、養豚生産に一定の抑制が生じ飼料需要は落ち着きを見せている。

消費量(搾油仕向け)は、世界全体で3億2839万トン(同4.0%増)と前月から96万トン下方修正された。最大の消費国である中国は前月から変更されなかったが、アルゼンチンは搾油需要の減少を要因に前月から100万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、前月より568万トン上方修正の1億457万トン(同5.5%増)とされ、2018/19年度以来の1億トン台が見込まれている。

表 主要国の大豆需給見通し（2021年10月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国 名	2019/20 年度	2020/21 年度 (推計値)	2021/22 年度		
			(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	24.74	14.28	4.76	6.97 ▲ 51.2%
	生産量	96.67	114.75	119.04	121.06 5.5%
	輸入量	0.42	0.54	0.68	0.41 ▲ 24.1%
	消費量	58.91	58.26	59.33	59.60 2.3%
	輸出量	45.70	61.66	56.88	56.88 ▲ 7.8%
	期末在庫	14.28	6.97	5.04	8.71 25.0%
ブラジル	期首在庫	32.47	20.00	26.60	26.95 34.8%
	生産量	128.50	137.00	144.00	144.00 5.1%
	輸入量	0.55	1.02	0.65	0.65 ▲ 36.3%
	消費量	46.74	46.75	47.70	47.70 2.0%
	輸出量	92.14	81.65	93.00	93.00 13.9%
	期末在庫	20.00	26.95	27.90	28.25 4.8%
アルゼンチン	期首在庫	28.89	26.65	24.60	25.75 ▲ 3.4%
	生産量	48.80	46.20	52.00	51.00 10.4%
	輸入量	4.88	5.00	4.70	4.70 ▲ 6.0%
	消費量	38.77	39.65	43.00	42.00 5.9%
	輸出量	10.00	5.15	6.35	6.35 23.3%
	期末在庫	26.65	25.75	24.60	25.70 ▲ 0.2%
中国	期首在庫	19.46	26.80	32.80	33.72 25.8%
	生産量	18.10	19.60	19.00	19.00 ▲ 3.1%
	輸入量	98.53	99.00	101.00	101.00 2.0%
	消費量	91.50	93.00	98.00	98.00 5.4%
	輸出量	0.09	0.08	0.10	0.10 25.0%
	期末在庫	26.80	33.72	35.00	35.92 6.5%
世界計	期首在庫	114.10	95.48	95.08	99.16 3.9%
	生産量	339.89	365.26	384.42	385.14 5.4%
	輸入量	164.97	165.85	170.94	170.62 2.9%
	消費量	312.48	315.61	329.35	328.39 4.0%
	輸出量	165.06	164.87	173.17	173.08 5.0%
	期末在庫	95.48	99.16	98.89	104.57 5.5%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

2021/ 22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、10% 台の見込み

USDA/WAOBは2021年10月12日、2021/ 22年度(9月～翌8月)の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである(表)。

表 米国のトウモロコシの需給見通し(2021年10月12日米国農務省公表)

区分	－単位－	2019/20 年度	2020/21 年度 (推計値)	2021/22 年度			
				(9月予測)	(10月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.7	93.3	93.3	37.8（百万ヘクタール）	2.9%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.3	85.1	85.1	34.4（百万ヘクタール）	3.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	171.4	176.3	176.5	11.1（トン/ヘクタール）	3.0%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,111	14,996	15,019	381.50（百万トン）	6.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	24	25	25	0.64（百万トン）	4.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,187	1,236	31.40（百万トン）	▲ 35.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,055	16,208	16,280	413.53（百万トン）	1.4%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,066	12,325	12,280	311.92（百万トン）	1.8%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,597	5,700	5,650	143.52（百万トン）	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,469	6,625	6,630	168.41（百万トン）	2.5%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,032	5,200	5,200	132.09（百万トン）	3.3%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,753	2,475	2,500	63.50（百万トン）	▲ 9.2%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,819	14,800	14,780	375.43（百万トン）	▲ 0.3%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,236	1,408	1,500	38.10（百万トン）	21.4%
期末在庫率	(%)	13.7	8.3	9.5	10.1		1.8 ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.53	5.45	5.45	24.7（円/kg）	20.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

生産量は、単収の上方修正を受けて、150億1900万ブッシェル(3億8150万トン^{注1})、前年度比6.4%増、前月比0.2%増)と見込まれている。前年度からかなりの程度増加する見込みであり、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル(3億8477万トン)に近い水準となっている。

消費量は、食品・種子・その他工業向けが前月から500万ブッシェル上方修正されたものの、飼料など向けが5000万ブッシェル下方修正されたため、全体では122億

8000万ブッシェル(3億1192万トン、同1.8%増、同0.4%減)とわずかに下方修正された。

輸出量は、増産予測やその他主産国の輸出量の下方向修正などを受けて、25億ブッシェル(6350万トン、同9.2%減、同1.0%増)と前月からわずかに上方修正されたものの、依然として記録的な輸出量となった前年度からかなりの程度の減少が見込まれている。

期末在庫は、15億ブッシェル(3810万トン、同21.4%増、同6.5%増)と前月からかなりの程度上方修正された結果、期末在庫率(総消費量に対する期末在庫量)は

10.1%（同1.8ポイント増、同0.6ポイント増）と前月の9%台の予測から10%台に回復した。

また、生産者平均販売価格は、前月と同じ1ブッシェル当たり5.45米ドル（627円。1キログラム当たり24.7円：1米ドル＝115円^{（注2）}）と見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年10月末日TTS相場。

（調査情報部 荒川 侑子）

中国

トウモロコシ価格は供給増から下落傾向

中国農業農村部は10月19日、「農産物需給動向分析月報（2021年9月）」を公表した。この中で2021年のトウモロコシについて、作付面積の増加と良好な天候に恵まれたことから豊作が見込まれており、供給量の増加により価格は下落傾向にあるとしている（図1）。

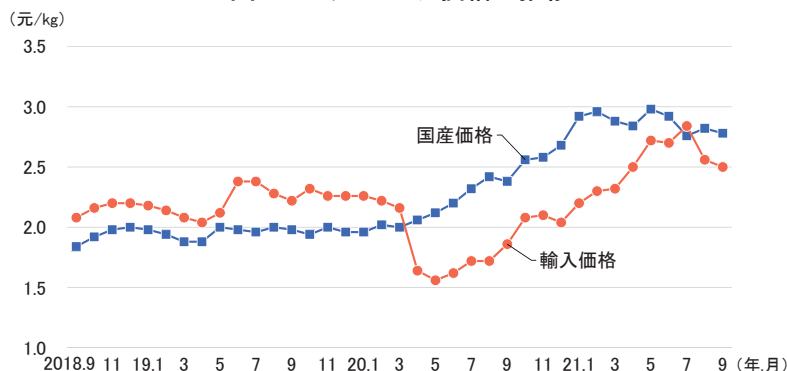
下落の要因として、収穫を終えたトウモロコシが国内市場に出回り始めたことで、貯蔵されていた輸入トウモロコシの出荷も加速しており、全体として飼料向け、工業向け需要がいずれも弱含みの中で、需給バランスが緩んでいることを挙げている。

養豚生産が盛んな中国南部向け飼料原料集

積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内1%の一次税率＋25%の追加関税）は、9月が1キログラム当たり2.50元（45円：1元＝18円^{（注）}）となり、国産のトウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）に比べ同0.28元（5円）低かった。なお、関税割当数量を超えた同トウモロコシ価格（65%の関税＋25%）は、同4.02元（72円）となり、国産に比べ同1.24元（22円）高くなっている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年10月末日TTS相場。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（課税後）。

国産大豆価格、短期的には下落と予想

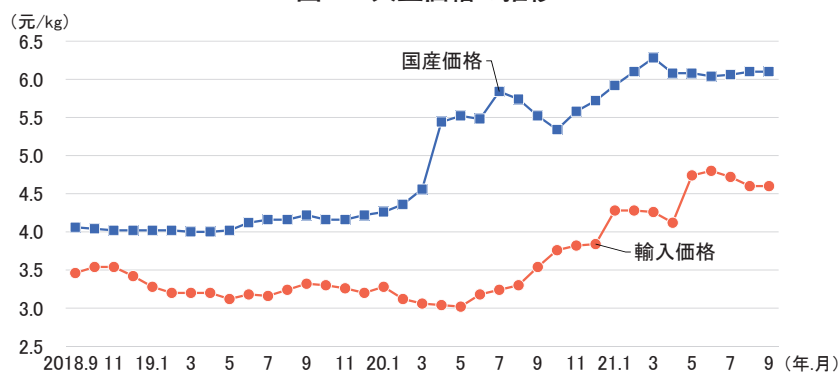
2021年の大豆については、9月に入り南部での収穫が終了を迎え、主産地である東北部での収穫が始まったが、トウモロコシと同様に天候に恵まれたことなどから全体的に豊作が見込まれている。価格は安定した推移を見せているが、収穫を終えた大豆が国内市場に出回り始めたことで、短期的には国産の大豆価格は下落傾向と予測している（図2）。

大豆主産地の一つである東北部の黒竜江省の搾油用向け大豆平均取引価格は、9月が1キログラム当たり4.78元（86円、前年同月比14.2%高）、同じく食用向け同価格は同5.72元（103円、同13.2%高）と前年に比べて高い水準にある。また、大豆

の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.1元（110円、同10.5%高）と同じく高い水準にある。

一方、国産と輸入大豆との価格差は、9月が前月と変わらず1キログラム当たり1.50元（27円）となったが、前年同月比では同0.48元（9円）まで縮小している。2021年1～8月の中国の大豆輸入量は6712万トン（前年同期比3.7%増）と内外価格差を反映して増加で推移しており、主な輸入先国は、ブラジル（輸入量の64.1%）、米国（同32.2%）、アルゼンチン（1.5%）となった。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

2021/22年度の大豆輸入量は1億トン超えを予測

中国政府系機関の国家糧油情報センターは10月初旬、「油脂市場の需給状況に関する月報」を公表した。2021/22年度（10月～翌9月）の需給見通しは前月公表からの変更はなかったが、公表された予測値を見ると、同年度の中国の大豆供給量は1億2040万トン、うち1840万トンが

国産大豆、1億200万トンが輸入大豆であるとした。このうち、消費量（搾油仕向け）は1億150万トン（前年度比300万トン増）、うち160万トンが国産大豆、9990万トンが輸入大豆であるとした。そのほか食用等向けとして1738万トンの消費を見込んでいる。

（調査情報部 横田 徹）